

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃、機関銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に、リオデジャネイロ市及び郊外のスラム街（ファヴェーラ）では麻薬密売組織間の抗争が継続しているほか、治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生し、流れ弾による被害者が発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 州政府は凶悪犯罪対策に注力しており、殺人、強盗の発生数は過去5年間減少傾向であったが、2013年初頭頃から一般犯罪の増加が顕著になっている。

治安当局は治安悪化の理由について、

- (ア) 相次いで新設されたUPPに人員を配置したため、既存の警察署の人員不足が深刻化した。
- (イ) コンフェデレーションカップ、ローマ法王来訪に伴って警戒体制を取ったため、街頭に配置する警察官がさらに不足した。
- (ウ) 上記イベントに連動して大規模デモが発生し、デモ対策のために警察官の不足が一層顕著になった。
- (エ) 大規模デモに便乗する犯罪が多発した。

と説明しているが、大規模デモ収束後の9月の統計でも従前に増して犯罪件数の増加が顕著である。

邦人が多数居住する南部地区でも、コパカバーナ以外では犯罪が増加しており、特にフラメンゴ、ポタフォゴ地区では強盗発生数が前年の2倍以上に増加している。

リオ市における人口当たりの犯罪発生率を日本と比較すると、殺人が約2.3倍、強盗は約300倍である。窃盗、詐欺、傷害等の罪種は引き続き増加傾向である。

リオ州公安研究所による、昨年10月の犯罪統計は以下のとおり。(括弧内は前年同月比の増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	379 (+50)	114 (+19)
強盗	10842 (+3094)	5473 (+1445)
(うち路上強盗)	5125 (+1552)	2549 (+692)
窃盗	15755 (+2529)	9552 (+2183)
強姦	515 (-22)	179 (+30)

## (2) 邦人被害事案

- (ア) 10月4日(金)午後0時30分頃、セントロ地区 チリ共和国大通り路上で企業駐在員が勤務先付近路上を単独で徒歩移動中、20代後半くらいの2人組が前方に立ちふさがり、「セルラー、セルラー」と言いながら携帯電話を渡すよう要求し、胸ポケットに手を突っ込んで携帯電話を奪い取った。男たちはさらに被害者のズボンのポケットを探り、それ以上の金品がないことを確認すると足早に立ち去った。
- (イ) 11月6日(水)午前11時頃、カテドラル・メトロポリタナから出てきた観光客が2人組の男にリュックサックを奪われそうになり、抵抗したところドライバーのような物で腕を刺され軽傷。
- (ウ) 11月13日(水)午後9時頃、コパカバーナ地区Rua Sa Ferreira通りとAv. Nossa Senhora de Copacabana通りの交差点付近で出張者が強盗被害。夕食を取った後、Av. Nossa Senhora でタクシーを拾おうとしていたところ若者2人組にナイフを突きつけられ現金を要求された。財布を手渡すと現金だけを抜き取って逃走。同僚4名が同伴していたが、1人のみ被害。
- (エ) 11月上旬、短期滞在者がキャッシュカードのスキミング被害。ガレオン空港内に設置された外資系銀行のATMを使用した際に磁気情報を盗まれた可能性が高い。日本の銀行発行のキャッシュカードを使用。空港のATMでは被害が多発しており、やむなく使用する場合は、事後速やかに暗証番号を変更するなどの対処が必要。
- (オ) 12月22日午後10時頃、旅行者が単独でレブロン海岸ポスト11付近の砂浜を散策していたところ、若者1名が接近して「マネー、マネー」と言いながら突然被害者のズボンのポケットに手を突っ込み、ポケットにあったスマートフォンを奪い取って逃走した。
- (カ) 12月31日午後10時頃、コパカバーナの花火大会を見物に行った観光客グループのうち1名がすり未遂に気づき、付近にいた犯人に対して「泥棒」と叫んだところ、犯人が観光客グループの1名を指さし、「こいつが犯人だ」と叫んで殴りかかった。周囲の観光客が犯人を取り押さえて警察に引き渡した。殴られた被害者は口の中を切る軽傷。

## 3. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

## 4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2013年10月中にリオ州内で短時間誘拐13件（うちリオ市7件）、脅迫6864件（うちリオ市2586件）が発生している。

5. 日本企業の安全に関わる諸問題  
特になし。

以上